

「教育と公共」研究部会（第2回）

日時：2019年5月10日（金）13:00～15:20

場所：野間教育研究所 2F 閲覧スペース

出席：田嶋一・浅井幸子・上野正道・狩野浩二・仲田康一・藤井佳世 各兼任研究員
吉久知延所長・金沢千秋・川上智子

内容：（1）狩野浩二研究員の研究計画：斎藤喜博の学校づくり運動の調査

- ・群馬県島小学校の学校づくり（1952～1963年）の11年間
- ・島小学校を起点とする学校づくり運動を実施した小学校について、三つに分類し、調査する
 - ①斎藤喜博自身が校長として学校づくりを行った2校
 - ②斎藤喜博の指導の下で展開した学校づくりを行った10校
 - ③斎藤喜博没後、関係者によった学校づくりを行った28校

◆質疑応答

- ・近年、なぜ沖縄に集中したか？（田嶋）→沖縄から関係者が来ていた
- ・斎藤喜博はなぜ群馬では受け容れられなかったか？（田嶋）→強烈な個性のせいか。組合運動の関係か
- ・斎藤の学校づくりは、いろいろな子どもがいる公立学校が向いている
- ・そもそも「学校づくり」とは？（浅井）

（2）藤井佳世研究員の研究計画：公共と人間形成

- ・自己形成に公共圏はどう関わるのか、20世紀（とりわけ戦後）ドイツの教育哲学と、日本の教育人間学における「公共と教育」とを絡めて検討したい
- ・ハーバーマス思想と教育、日本の教育人間学を公共の視点から読み直す
- ・検討したい図書：エヴァ・フェダー・キティ（岡野八代・牟田和恵／訳）『愛の労働あるいは依存とケアの正義論』（2010年）／森昭『教育の内面性と実践性』（『森昭著作集』第4巻、2015年）／野平慎二『ハーバーマスと教育』（世織書房、2007年）／矢野智司『歓待と戦争の教育学—国民教育と世界市民の形成』（東京大学出版会、2019年）

（3）浅井幸子研究員の研究計画：幼児教育と公共性

- ・保育問題研究会の「伝えあい保育」と乾孝の心理学
- ・レッキョ・エミリアの幼児教育における「民主主義」
- ・参考文献：『思想 公共 I』（岩波書店、2019年3月号）／ジュディス・バトラー『アセンブリ』（青土社、2018年）

（4）今後の方向：次回は共同研究の枠組みをつくる方向性を探る

- ・田嶋氏が提出した事典・辞書等の「公」「公共」の記述に目を通しておく
- ・何人かが参考文献とした『思想 公共Ⅰ』『思想 公共Ⅱ』を各研究員に手配

- ・次回研究会は、6月14日（金）13：00～。全員討議